

よりよく生きる

人権学習（参観日）の紹介（2年生）

私の祖父（読み物資料）

【資料のあらすじ】

70歳になる私の祖父は、被差別部落出身であったが、小学校に通えず、義務教育を受けることができなかった。祖父は、父親が一生懸命働いて家族を養ってきたこと、自分自身も苦しい生活を強いられながら、頑張ってきたことなどを振り返る。当時、文字を奪われていた祖父も、現在は、独学で文字を学んだり、識字学級に通ったりしながら学習を続けている。私は、そんな祖父の姿に尊敬し、いつまでも元気で長生きしてほしいと願う。



なぜ、おじいさんは、差別に負けない、前向きな生き方ができたのだろう

- ・心の底から優しく強い人だったから。生きていくことへのありがたさがきちんと分かる立派な人だったから。家族が温かかったから。いろいろな周りの人の支えがあったから。
- ・お母さんを助けたいという気持ちと、差別をなくしたいという強い気持ちがあったから、前向きな生き方ができたんだと思います。

祖父の生き方から、あなたはどんなことを学びましたか

- ・もしも差別をされたり、いじめられていても、きっと近くに自分の味方や仲間はあるし、前向きに生きていけば、誰かに認めてもらえるかもしれないということを学びました。
- ・差別のある世の中であってはいけないということを、前向きに生き抜く祖父の姿から強く感じました。今も、いろいろな差別がありますが、差別をなくす努力をしていきたいです。

今回の資料は、差別の現実を深く学ぶことができる資料でした。また、必死で生き抜き、独学で文字の読み書きを覚えた祖父のたくましく尊敬すべき生き方から、人間としての生きる本当の喜びや差別を解消していこうという気持ちを高めることができる授業だったのではないかと思います。私たちが、この学習を通して、差別を許さず、解消していこうとする態度を身に付けていくことが、祖父の本当の願いなのかもしれません。